

# 京都 YWCA チャリティコンサート 「情熱のタンゴ」無事終了!



京都 YWCA チャリティコンサート「情熱のタンゴ～ASTORORICO」を11月30日に京都府立府民ホールアルティで開催しました。4年ぶりのアストロリココンサートです。バンドネオン、バイオリン、ピアノ、コントラバスが織りなす、タイトル通りの情熱的な曲、そしてきらびやかで激しい「亮&葉月」さんのダンスに魅了された2時間でした。多くの方においでいただいたことを心から感謝申し上げます。

## 今後のプログラム

### ◎今、必要とされる支援とは～時代の流れを見据えるために～

- 日 時：2020年1月17日(金) 18:30～20:00
- 話し手：西山祐子さん(一般社団法人みんなの手 代表理事)
- 参加費：500円 ※別途、飲み物や軽食も販売します
- 対象：一般(定員：20名) ※要予約

### ◎ニューイヤーブチスリフトセール

- 日 時：2020年1月18日(土) 11:00～14:00
- 取扱い物品：洋服(男女大人用冬物)、アクセサリー、カバン、帽子、食料品
- 対象：一般
- お願い：自転車での来場はご遠慮ください

### ◎第98回定期会員集会

- 日 時：2020年3月7日(土) 13:00～16:30
- 主 題：「いのちを選びなさい」(申命記30章19節)
- 内 容：2019年度の事業・活動報告および2020年度活動計画

※会場はいずれも京都 YWCA

## ご協力ありがとうございました

2019年10月1日から11月30日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

- |  |  |
|--|--|
| <b>一般寄付</b><br>中村信博、<br>京都キャピタルワイズメンズクラブ、<br>社会福祉法人西陣会     | <b>*多文化共生委員会</b><br>筒井奈都子  |
| <b>各指定寄付</b><br><b>*未来応援募金</b><br>有田孝子、重谷秀星、平野晴美、<br>匿名    | <b>*APT</b><br>安藤いづみ、張善花   |
| <b>一保育園備品募金</b><br>井上依子、有田孝子、篠田茜                           | <b>*平和・環境活動委員会</b><br>清水義  |
| <b>一「れんが」プロジェクト</b><br>山本知恵、岡佑里子、西村佐記子                     | <b>*自立援助ホーム「カルーナ」</b><br>今村武廣、横江美佐子、井上摩耶子、<br>上田理恵子、辻野玲子、黒木雅子、<br>定本ゆきこ、小宮一子、<br>日本聖公会京都教区婦人会、<br>京都府更生保護女性連盟、匿名 |
| <b>*世界 YWCA 総会派遣募金</b><br>井上依子、有田孝子、加藤善彦、<br>神岡茂子、山本知恵、篠田茜 | <b>*親子育ち支援委員会</b><br>赤尾陽子、橋まゆみ、匿名  |
|  | <b>*賛助費</b><br>松永公子  |

## 「京都 YWCA 未来応援募金」へのご協力をお願い

「未来応援募金」として次の募金を実施しています。ご協力をお願いいたします。

- ◎京都YWCA未来応援募金—保育園備品募金  
保育園の備品等の購入をご支援いただく募金です。
- ◎京都YWCA未来応援募金—「れんが」プロジェクト(期間・数量限定)  
特徴あるレンガ塀の上部を耐震のため取り除きました。取り除いた思い出のあるレンガを新しくできる門の周辺に敷く計画です。  
1口：5,000円/レンガ1枚  
募金期間：2020年2月まで  
郵便振替 01080-9-1566 加入者名 公益財団法人京都 YWCA  
\*通信欄に「未来応援募金保育園備品募金」あるいは「未来応援募金れんがプロジェクト」とご記入ください。  
京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。 <http://kyoto.ywca.or.jp/support>



## 有田税理士事務所

税金のことでお困りの時は  
ご相談ください



京都市上京区武者小路通烏丸西入梅屋町 468  
URL <http://www.aritax.jp>

aritax 検索  
で一発です! ☎ 075-451-5178

## 11・12月/理事会報告

- 保育士・調理員の面談・採用を進めている。引き続き募集中。
- 株シンセキとウェブ改訂を含む広報業務に関する4年契約を締結。園舎建設に伴う新たな看板・掲示板等について専門家と検討。
- 園舎およびその他工事、保育園備品購入、諸費用についての支払・銀行借入予定を確認。
- 第98回定期会員集会準備委員会始動。3/7(土)午後開催。
- 新しく公益事業を追加して「公益認定変更申請」を京都府に提出。
- 12/14(土)：ボランティア説明会(2019年度は6月・9月・12月・3月開催予定)
- 12/14(土)：クリスマス集会実施(日本聖公会京都聖マリア教会 藤原健久司祭による礼拝と、音楽の贈り物)
- 12/27(金)：小学生冬休みディアウト・プログラム「ガジュマルの樹」。「多文化と食」をテーマに実施。

KYOTO YWCA No.554 2020年1月号(1月1日発行)

発行人：上村 諭 子 発行所：公益財団法人京都 YWCA 〒602-8019 京都市上京区室町通水上ル近衛町44	電 話：(075)431-0351 F A X：(075)431-0352 e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp H P：http://kyoto.ywca.or.jp	郵便振替：01080-9-1566 口座名義：(公財)京都 YWCA 定 価：1部 50円 発 行：奇数月1日発行
---	---	--

エンパワーするNGO

# 京都 YWCA

# 1

## 2020

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## 「世界に広がるネットワーク」 ～世界 YWCA 総会に参加したユースの声から～



YWCAが120以上の国と地域に広がる国際NGOだということをご存知でしょうか? 京都YWCAは日本国内に24ある地域YWCAのひとつですが、同時に世界YWCAの一員でもあります。11月に南アフリカ、ヨハネスブルクで行われた「世界YWCA総会」に京都YWCAから4名のユースが参加しました。4年に1度開催されるこの国際会議のテーマは「ジェンダー平等に向けて、若い女性たちが権力構造を変革する」。彼女たちが何を感じ、考え、学んだのか、「声」を紹介します。

世界総会で一番印象的だったことは、70を超える国が参加する総会で各国のメンバーたちが似たような課題を持っていたことです。

多世代協働の中での難しさや、若い女性をどのように募集し育成していくのかなど、バックグラウンドや国の抱える問題は違えども、組織内でこれまで話したことがあるかのような近い距離感で腹を割って話せる環境がすぐに作れること、それはYWCAならではの良さではないかと思いました。

(奥山りつ)

「世界のユースが何を問題視し考えているのかを知る」ことが私の総会参加の目標でした。他国のユースの声を聴き、同じ考えを持っていることに勇気づけられたり、新たに気づかされたりしました。英語が苦手ということもあり、目標を100%達成できたとは言えません。対話のための共通言語の大切さを痛感しました。一方で言葉が通じない人とも手を取り合い、心を通わせられることも経験しました。対話と心の交流をYWCAの活動の中で活かしていきたいです。それが平和な世界をつくるための私の一歩になると信じています。

(別所七色)

私は現在、ソーシャルワーカーを目指し福祉の学校に通っています。今回の世界YWCA総会に参加して様々な国のソーシャルワーカーの方と出会うことができました。そして他国のジェンダー問題の現状や、ソーシャルワーカーとしての働き、YWCAとソーシャルワーカー、ほかの団体との繋がりを知ることが出来ました。

その中で感じたのは、日本では、一人ひとりの自国の問題把握の薄さと問題解決のための時間の少なさでした。もっと多くの国と情報共有できれば様々な国の問題も解決できるのではないかと感じました。

(山田咲希)

私がこの世界総会に行き感じたことは、友達は私を幸せにしてくれるということです。総会に参加した大きな目的はたくさんの友達を作ることです。特に今回できたスウェーデンの友達は私の考え方、行動までも変えてくれました。自分の意見をしっかり持ち、それをシェアすることの大切さに気付かされました。別れ際に、涙するほど大切な友だちになりました。友だちになることは平和を作るということをモットーに、これからも交流を続けていきたいです。

(山本光)



わたしたちが世界を変える力!!!



世界の仲間たちとともに、Young Womenの力を信じて



ステージの上で記念撮影



英語でワークショップにも挑戦しました。準備に余念がありません。



## ほーぼのぼの学習会「沖縄に学ぶシリーズ」第3回 「関西沖縄文庫」を訪ねて



人口の2割が沖縄にルーツをもつ大阪市大正区、そこに「関西沖縄文庫」があります。文庫を立ち上げた金城馨（かなぐすく・きんじょう・かおる）さんを11月23日に訪ねてお話を伺いました。以下は金城さんのお話です。（松田千治）

1910年頃、仕事を求めて大正区に移り住んだウチナーンチュ。70年代、ウチナーンチュの青年たちが差別をはね返し、誇りを取り戻すためにエイサー祭り（先祖供養の祭り）をした時、先人のウチナーンチュから「沖縄の恥さらし」と石を投げつけられた。仕事探し、家探しで「琉球人、朝鮮人お断り」の貼り紙が堂々とある時代、沖縄を隠さなければ暮らしていけなかった先人は、日本人の見えないところで泡盛を飲み、三線を弾いて踊ってウチナーンチュとして居場所を作って生きてきた。生きた時代の違いを共有できた時、先人たちを責めることはできなくなった。

違いを維持したまま共生するためには「壁」が必要で、疲れたら壁の内側に、元気になったら外側へ、その壁に隙間を作って風通しをよくする。

平和や日本国憲法第9条は守る対象ではなく、「平和の9条を実現する」ことこそが大事。平和を守るためと言って戦争をしてきた反省から学ぶ必要がある。「私の平和」という一人称では平和は作れない。「あなたの平和」を保障することが平和に近づく一歩になる。

マジョリティーの正しさはマイノリティーの正しさをつぶす。正しいと思いこんで行動すると暴力になる。正しさ押し付けず、間違いを認めていく。暴力をなくすために民主主義はある。

辺野古基地を止める新しい提案（沖縄だけに負担を押し付ける構造的差別に対して、少数者の権利を保障する公正で民主的な解決を求める）は、本土日本の主体性が問われている。

※もっと沖縄を知りたい方へお薦めの図書  
『沖縄人として日本人を生きる』金城馨（解放出版）  
『新しい提案 辺野古新基地を止める民主主義の実践』  
新しい提案実行委員会（ポードーインク）



## YMCA/YWCA 合同祈禱週集会報告

### スリランカの漁村から～平和を作り出す人々～



11月30日にYMCA/YWCA 合同祈禱週集会が開かれ、アジア保健研修所（AHI）で研修中のスリランカ人、フランス・ブリアンカラさんとスランギ・ワサナさんにお話を伺いました。フランスさんはNGO「スリランカ全国漁民連合（NAFSO）」のスタッフで、多民族、多宗教国家スリランカの現状を報告されました。

1948年にイギリスから独立して以降、1983年から2009年までシンハラ人（主に仏教徒）とタミル人（ヒンズー教徒、イスラム教徒）の対立により内戦が続き、内戦後も政府の大規模開発政策により外国資本が土地を占有し、インドが不法に漁を行うなど、国民の権利が脅かされているため、NAFSOは住民、特に女性と若者の権利を回復し、平和を求める活動を行っています。

シンハラ人のスランギさんは1995年に貧困などのため高校を中退し、AHIの研修を受けたことから女性ボランティアリーダーとなり、貧困と麻薬に関する問題に取り組む若者のグループを結成しました。結婚、出産を経て、2002年に女性のグループを立ち上げ、薬物やアルコール中毒、DVの問題解決のため行政や宗教者にも働きかけるなど、若い女性がリーダーシップを発揮し社会を変革しようと奔走しました。2009年の内戦終結後は、タミルの女性たち

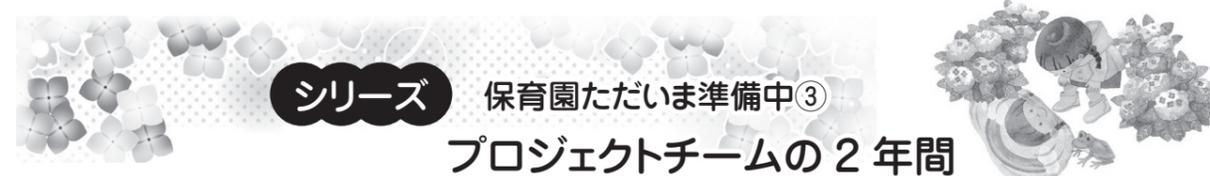
を訪ね、平和のための対話を始めました。今年4月には同時爆破テロが発生し、国を二分する対立が深まりましたが、イスラム教徒を攻撃しないように平和の呼びかけを続けています。

彼女は女性リーダーのロールモデルとなり、まず自分を変革することにより、自らも他者もエンパワーしています。女性の権利を守り、平和を希求していこうという彼女の強い思いが、言葉の壁を超えて私たちの心を動かしました。

会場には若い参加者も多く、南アフリカで行われたYWCA 世界総会から帰国したばかりのユースの報告も行われたため、「ジェンダー平等に向けて、若い女性が権力構造を変革する」という今年のテーマにふさわしい合同祈禱週集会となりました。（平野富希）



スリランカの現状とスランギさんの成長を熱く語るフランスさん



## シリーズ 保育園ただいま準備中③ プロジェクトチームの2年間

京都YWCAでは、女性と子どもを支援してきた長年の経験を活かし、社会のニーズに応えられる事業として「保育園」の可能性を2年前から探ってきました。2017年に、各活動部門からの代表、会員・会友有志、職員で構成される保育園プロジェクトチーム（以下PT）を立ち上げました。PTメンバーの役割は、検討内容をパイプ役となって会員に伝え、また会員からの意見を計画に反映させていくことでした。

### これまでの活動を保育園に活かしていくために

PTでは2年余りでさまざまなことを話し合い、いくつかの保育園を見学させていただきました。開園による新たな展開への期待とともに、開園に伴う課題についても話し合いました。園舎や園庭については意見を出し合い、それらは現実の制約を踏まえつつ設計案に反映されました。

既存事業との関係では長年続けたスリフトセールを一旦終了する決断をし、開園後の状況に応じた新しいリサイクル・リユースの形を模索することにしました。保育園事業に備えた設備の改修や部屋の使い方の変更、駐輪場整備などの必要性を確認し、限られたスペースを有効に使う工夫

に知恵を絞りました。保育園に携わるスタッフで構成される保育園準備チームで担う備品、遊具・教材、園庭等に関するタスクチームにはPTメンバーからも参加しました。

また、各活動部門で自分たちの活動を保育園にどう活かすかを話し合い、PTで共有しました。たとえば、現在実施している親子ライブラリー、リズム遊び、「あきまつり」を取り入れること、卒園児のための小学生の居場所、保護者支援としての惣菜販売、園児保護者と協働できるリサイクルやバザーの形を探ること、日本語クラスの受講生や留学生の協力を得て園児に異文化・多文化を経験してもらうこと、平和や環境についての出前プログラムなどなど。

できたプランについてはじっくりと検討していく予定です。新たな「出会い」に思いを巡らせつつ開園準備を進めています。

（上村愈巳子）



建設中の園舎（ホール跡地、2019年10月28日撮影）

## 環境学習会

### 「消費者の選択」が社会を変える

11月9日に、ふれあいの居場所「うららかふえ」事業部委員会と平和・環境委員会の共催で、「持続可能な社会のために、日常生活から考える」というテーマで学習会を行いました。講師の認定NPO法人「環境市民」副代表理事、下村委津子さんがパワーポイントを駆使して、とても分かりやすく語っていただきました。

環境問題にはある程度関心を持っているつもりでしたが、自分の勉強不足を思い知らされる、大変有意義な時間でした。地球環境に配慮した行動のためのキーワードとしてのいわゆる「3R」には優先順位があるということは特に印象に残ったことの一つでした。①リデュース（発生抑制）②リユース（再使用）③リサイクル（再資源化）はこの順で重要であるのに、日本ではリサイクルがいちばんポピュラーになっています。私もリデュースのことはあまり意識していませんでした。冷静に考えれば、まずゴミを出さなければリユースもリサイクルも必要ありません。

ほかにも、私たちの間違った地球資源の使い方が子孫にツケを回しているということや、買い物は毎日が投票であり、「消費者の選択」が作り手、売り手を変えることができるということなど、本当に多くのことを学びました。

京都YWCAのカフェで実施していることでは、ペットボトルの水やプラスチックのストローの使用を中止したことや、食べ残しを出さないためにご飯の量の希望を聞いていること、フェアトレードのコーヒー、紅茶を提供していること等は、なぜそうしているのかという理由をもっとアピールしていきたいと思いました。食べ残しの持ち帰りも可能にできないのかを検討したいと思います。

個人的には、お話を聞いてから、家でおかずが残った時に、つい面倒で器にラップをかけて保存していたのを、保存容器に移すようにするといった小さな変化はあるのですが、まだまだできていないことだらけです。

でも「ベストでなくてもいいから、ベターを選択して下さい」と言われたことを忘れず、賢い消費者を目指していきたいと思えます。

（新海恵子）



学習会の様子